

図画工作科における授業づくりのポイント

1 図画工作科における主眼について

図画工作科の主眼は、二つの観点から書きます。主に、一つは内容【知識及び技能】、二つは内容を捉えるための活動や着目する形や色【思考力、判断力、表現力等】を書きます。

○主眼の作り方の例

主眼1 □□(表したいこと)を、■■(表し方)を工夫し、形や色を～して表すことができるようにする。
2 ～する活動を通して、～のよさや美しさについて話し合うことができるようにする。

【第5学年題材「(立体に表す活動)だんボールでためしてつくって(3/4時)」の主眼1の例】

(1) 解説書を読んで内容を焦点化する

- ①「A表現(2)イ」(小学校学習指導要領 解説92ページ部抜粋)から立体に表す活動を通して、表したいことに合わせて表し方を工夫する。
- ②(共通事項)(1)ア(小学校学習指導要領 解説100ページ部抜粋)から形や色の造形的な特徴を理解すること。
⇒例えば、形そのものもつ方向感、量感など


【焦点化された主眼】
表したいことを、表したいことに合わせて表し方を工夫した時の方向感やもの量感によって表すことができるようにする。

(2) 教科書の作品を見て内容を具体化する

- ①表し方の工夫を具体化する
段ボールの加工の仕方…切る、曲げる、剥がす
段ボールの組み合わせ方…貼る、並べる、組む、差し込む、巻く、重ねる
- ②着目する形や色(造形的な視点)を具体化する
そのものの形…動き、面の感じ
組み合わせた時の形…全体の量感、構成する部分の大きさ、方向

【具体化された主眼】
表したいことに合わせて段ボールを重ねる、差し込む…といった組み合わせ方を工夫した時の、全体の量感、部分の大きさや方向によって表すことができるようにする。

(3) モデル作品をつくって内容を明確化する

- 
- ①表したいことを見付けるためのテーマを明確化する
段ボールの特徴を生かして表現するために、身の回りの物を段ボールで表していくことをテーマとして設定する。
 - ②形や色に着目するための鑑賞の視点を明確化する
段ボールの素材感を生かして表現する日比野克彦氏の作品を鑑賞して、形や組み合わせ方のよさや美しさに着目できるようにする。

【明確化された主眼】
身の回りにある物のイメージを、段ボールを重ねる、差し込む…といった組み合わせ方の工夫をした時の全体の量感や、全体を構成している部分の大きさや方向によって表すことができるようにする。

2 図画工作科における題材指導計画について

図画工作科の題材指導計画では、表現への思いをもつ感受段階、表現への思いに基づいて表現方法の見通しをもつ構想段階、見通しを基にイメージを具体化する表現段階、つくりだす喜びを味わう鑑賞の段階といった四つの段階を大切にします。

段階	内容	具体例(第5学年題材「だんボールでためしてつくって」)
感受	題材や作品と出会ったり、材料との触れ合いをしたりして、表現への思いをもつ。	日比野克彦氏の作品を鑑賞したり段ボールと触れ合ったりして、段ボールを使った表現への思いをもつ。
構想	表現を試し、形や色のイメージ、その表現方法について見通しをもつ。	段ボールを用いた表現を試し、身の回りにある物のイメージやその表現方法について見通しをもつ。
表現	表したいことのイメージに合わせて、材料を選んだり表し方を工夫したりして表す。	身の周りにある物のイメージに合わせて、段ボールの組み合わせ方を工夫して表す。
鑑賞	つくりあげた作品を鑑賞し、自分なりに表現することができた満足感を味わう。	段ボールの表現物を鑑賞し、段ボールの加工の仕方や組み合わせ方を工夫して表すことができた満足感を味わう。

3 図画工作科における一単位時間の学習過程について（表現段階において）

図画工作科の学習過程では、表したいことを明確にし、表したいことに合わせて自分なりに表し方の工夫を考えながら表していく問題解決的な学習過程を大切にします。

○一単位時間の学習過程


段階	学習活動と予想される反応	具体的な支援 ※ICT活用			
導入	<p>1 前時までの表現を振り返ったり、作品を鑑賞したりして本時のめあてについて話し合う。</p> <p>前の時間に□□を表せなかったから、もっと□□な感じを表したいな。</p> <p>(本時のめあて) もっと□□な感じを表そう。</p>	<p>○本時のめあてをもつことができるように、<u>学習者用端末に保存している前時までのイメージを振り返ったりモデルとなる作品を鑑賞したりする場面を設定する。</u></p>			
展開	<p>2 表し方を工夫して、□□な感じを表す。</p> <p>(1) 前時の表現を振り返り、イメージや表現方法(材料の選択、表し方)について見通しをもつ。</p> <p>・～な形や色だと□□な感じになりそうだね。 ・～な形や色は、～で表すことができそうだ。</p> <p>(2) 見通しを基に表現方法やイメージを付加・修正・強化して、□□な感じを表す。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>表し方を付加 表し方A+B</td> <td>材料を修正 材料C</td> <td>イメージを強化 イメージA'</td> </tr> </table> <p>(3) 中間鑑賞を行い、つくりかえたイメージや表現方法について話し合う。</p> <p>・表し方のAとBを組み合わせると、形や色が～になって、前よりも□□な感じが表れているよ。 ・形や色についてのイメージが膨らんでいるね。</p>	表し方を付加 表し方A+B	材料を修正 材料C	イメージを強化 イメージA'	<p>○イメージや表現方法の見通しをもつことができるように、<u>前時までの表現を学習者用端末で振り返る場面を設定する。</u></p> <p>○多様な工夫に気付くことができるように、工夫している児童の表現やその意図を板書に提示する。</p> <p>○つくりかえた表現の効果に気付くことができるように、「工夫したことでどのような感じが表れましたか」と発問する。</p>
表し方を付加 表し方A+B	材料を修正 材料C	イメージを強化 イメージA'			
終末	<p>3 □□な感じを表すための工夫について振り返り、本時の表現をまとめる。</p> <p>前の時間に表せなかった□□な感じを、表し方を工夫して表すことができたよ。</p> <p>(本時のまとめ) □□な感じを、～を工夫して表すことができた。</p>	<p>○工夫して□□な感じを表すことができた満足感を味わうことができるように、<u>学習者用端末を用いて前時と本時の表現物を比較する場面を設定する。</u></p>			

4 図画工作科における ICT の活用について

図画工作科では、「作品(表現方法)」、「イメージ」、「振り返り」を学習履歴として蓄積していきます。そして、これらの学習履歴を以下の三つの機能を用いて活用します。

- 保存機能…前時までの作品やイメージを見返し、形や色の変容を実感することができるようにする。
- 編集機能…ペイントソフトで表現を試し、形や色の見通しをもつことができるようにする。
- 共有機能…友達イメージや表現方法を選択し、自分の表現に取り入れることができるようにする。

○ICTの活用の具体例(第3学年題材「うまれかわったなかまたち」)

保存機能	編集機能	共有機能
<p>導入段階に前時の振り返りを見返すことで、「今日は生き物の○○なところを表していきたい」という本時表現のめあてをもつことができるようにする。</p> <p>前時のワークシート(一部)</p> <p>学習の振り返り ・今日表したこと ・工夫したこと</p> <p>あまり使わない服で形を作りそれを花柄のワンピースで包んで体を作りました。また、首から下と足の毛ができていないので、次の時間にそこをつくりたいです。</p>	<p>展開の前段に表したいことのイメージを図で表すことで、「不思議な生き物がどのような形や色なのか」という見通しをもつことができるようにする。</p> <p>図で表した不思議な生き物のイメージ</p> <p>長くてカラフルなヘビ</p> 	<p>展開の後段や終末段階に共有されている友達の作品を見ることで、自分の不思議な生き物を付加・修正・強化してつくりかえることができるようにする。</p> <p>共有された友達の作品「不思議な生き物」</p> 